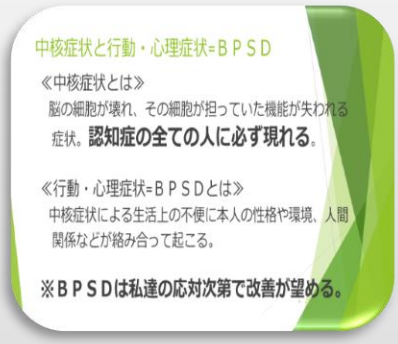
D－TIMES

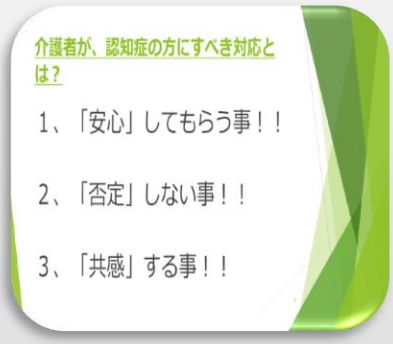
No．13

認知症ケア委員会

認　知　症　勉　強　会

職員の皆さんいつもお疲れ様です。まだまだコロナ脅威の世の中、油断できない状況が続いています。
ケアセンターにおいても職員一人一人が日々、感染予防に奮闘していますね。
さて、先日、全職員対象にて今年度2回目の認知症ケア勉強会を開催しました。





中核症状と BPSD について学び、ワークシートを用いて、
実際の利用者様のケースでグループワークを行いました。
活発な意見が多く、良いディスカッションが行えていました。
今後のケアにぜひ活かしていきましょう

認知症がテーマの映画５選

認知症の映画って実は沢山あるんです。今回ほんの少しだけご紹介します。本人・家族の思いや考えを映画から学んで見てはいかがでしょうか。

毎日がアルツハイマー　2012年日本　ドキュメンタリー

アルツハイマー型認知症の母親の介護の日々を映画監督である娘が2年半にわたって記録し、YouTubeで累計視聴数20万ビューを超すほど話題になった映像を基にしたドキュメンタリー。発症前よりも感情をあらわにするようになったという母親の様子をユーモアを交えながら捉え、母を取り巻く家族の様子を軽やかに描き出す。

僕がジョンと呼ばれるまで

2013年　日本/アメリカ　ドキュメンタリー

日本で開発された脳活性化プログラムを基に、アメリカの高齢者介護施設で行われた認知症改善の取り組みを追ったドキュメンタリー。読み書き、計算を通じ認知症改善を目指す「学習療法」に挑戦することで、プログラムに参加する人たちが再び笑顔と自分らしさを取り戻していく様子を映し出す。

長いお別れ　　2019年　日本　ヒューマンドラマ

父・昇平(70)の誕生日で久しぶりに集まった娘たちは、厳格な父が認知症になったという事実を告げられる。日に日に記憶を失っていく昇平の様子に戸惑いながらも、そんな昇平と向き合うことで、家族が自分自身を見つめ直していく。そんな中、家族の誰もが忘れていた思い出が、昇平の中で息づいていることがわかる…。一家の長女・麻里役を竹内結子、次女・芙美役を蒼井優、母・曜子役を松原智恵子が務め、認知症を患う父・昇平を山崎努が演じた。

しわ　　2011年　スペイン　アニメ

高齢化社会や認知症というテーマを手描きアニメーションで描き、スペインの賞レースで著名なゴヤ賞で最優秀アニメーション賞と最優秀脚本賞を受賞したドラマ。養護老人ホームで暮らす男を主人公に、家族や老い、友情といったドラマを繰り広げる。

恍惚の人　　1973年　日本　ヒューマンドラマ

「認知症の親と家族」をテーマに書かれたベストセラー小説が映画化された本作品。1970年代当時、まだ「認知症」という概念自体がない時代に、高齢化社会へ鋭く切り込んだ作品として注目を集めました。『恍惚』とはぼんやりしてはっきりしない様。綺麗な言葉ですが、中身は認知症の介護が生々しく表現されています。認知症映画の先駆け的存在です。

引用　https://cinema-rank.net/list/1024